

詩と表現

担当教員 田野倉康一

受講アトリエ【501】 2025/11/05(水)-2026/02/18(水)
11:00-12:30

授業内容
受講者がそれぞれに詩に触れ、受容し、詩作することを通して、他人の言葉に左右されることなく、ファインアートやデザインの実践の中で言葉とうまく付き合っていけるようになること。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	11月5日	水	○	—	オリエンテーション		実技カリキュラム	
2	11月19日	水	○	—	叙事詩と抒情詩／具象と抽象		実技カリキュラム	
3	12月3日	水	○	—	作品購読、実技指導		実技カリキュラム	
冬季休暇								
4	1月7日	水	○	—	作品購読、実技指導		実技カリキュラム	
5	1月21日	水	○	—	作品購読、実技指導		実技カリキュラム	
6	2月4日	水	○	—	作品購読、実技指導		実技カリキュラム	
7	2月18日	水	○	—	講評会		実技カリキュラム	

学習目標
今回は実技を中心に考えています。やってみるとわかりますが、詩は美術に近い。日常言語の呪縛を破って、言葉でも自分の世界を作って未知の領域に足を踏み入れてみましょう。

予習・準備物
できれば図書館などで、思潮社の現代詩文庫シリーズなどを見て、好きになれそうな詩人を見つけておいてもらおうとベストです。それから、雑誌『現代詩手帖』の一昨年(2024)の六月号で詩と美術の特集をやっているの、これも図書館などで目を通していただければ、話がわかりやすいかもしれません。

注意事項
この授業を有意なものとするかは徹底的に本人次第です。それが「詩」を自らのものとする第一歩です。

評価方法
作品及び毎回配布するレジュメの提出により採点する。

木口木版

担当教員 長嶋一孝
受講アトリエ【版画工房/402】

2025/09/01(月)- 09/09(火)
9：20-12：30/13：30-16：30

授業内容

木口木版画は、18世紀頃ヨーロッパで完成された木版画の技法である。柘植、椿等の堅牢な木材の木口の面を、ビュランという彫刻刀で彫り進んでいく木口木版画の技法は、白と黒との精緻な表現に適している。本実習では、版画の技法の中でもとりわけ単純で明快な、彫って摺るという行為に重点を置く。原初的な彫版の作業の中で制作者は自分自身の素直な表象と出会う実習である。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	9月1日	月		制作準備・エスキースの作成		○	オリエンテーション、版の準備	
2	9月2日	火		制作		○	摺りのデモ	
3	9月3日	水		制作			制作	
4	9月4日	木		制作			制作	
5	9月5日	金		制作		○	色々な摺り	
6	9月6日	土		制作			—	
	9月7日	日						
7	9月8日	月		制作		○	裏打ち方法	
8	9月9日	火		制作		○	講評会	

学習目標

テーマ＝自由制作

予習・準備物

木口木版版木、ビュラン、オイルストーン、オイル、ベビーパウダー、カーボン紙・藍、トレーシングペーパー、耐水ペーパー1000番・1500番、墨汁、紙（雁皮紙、ハーネミュレ）、大和のり、リトグラフ製版インク、銅版画用インク、ウエス、新聞紙、マスキングテープ、水張りテープ白、消しゴム、作業着やエプロン

注意事項

木口木版版木の購入方法は前年度を参考にしてください。基本的にモノクロ作品ですが、期間が短い為、エスキースを予め考えておいてください。（版木のサイズを生徒に周知お願いします。）作品に対するステートメントを提出してもらいます。500文字程度

評価方法

提出課題、ステートメント提出による採点

銅版画2

担当教員馬場知子

2025/09/16(火)-10/7(火)

受講アトリエ【版画工房/402】

9：20-12：30/13：30-16：30

授業内容

初めに小さい版をテストプレートとして、銅版画の様々なマチエール表現を試しながら「道具、薬品の使い方」「描画」「製版」「刷り」の制作プロセスの基本を理解し体得する。本作品では自分のイメージの具現化に必要な表現や技法を選択し制作する。

授業スケジュール／計画								
			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	9月16日	火		制作準備		○	説明 小作品（テストプレート）制作	
2	9月17日	水		小作品制作		○	小作品制作 本作品準備説明	
3	9月18日	木		小作品制作	本制作準備		小作品制作 本制作準備	
4	9月19日	金		小作品制作	本制作準備		小作品制作 本制作準備	
5	9月20日	土		小作品制作	本制作準備		—	
	9月21日	日						
6	9月22日	月		本制作準備（遅くてもここまでに エスキースを仕上げる			本制作スタート	
	9月23日	火	秋分の日					
7	9月24日	水		本制作（描画、腐蝕）		○	本制作（描画、腐蝕）	
8	9月25日	木		本制作（描画、腐蝕）		○	本制作（描画、腐蝕）	
9	9月26日	金		本制作（描画、腐蝕）			本制作（描画、腐蝕）	
10	9月27日	土		本制作（描画、腐蝕）			—	
	9月28日	日						
11	9月29日	月		本制作（描画、腐蝕）		○	本制作（描画、腐蝕）	
12	9月30日	火		本制作（描画、腐蝕）			本制作（描画、腐蝕）	
13	10月1日	水		本制作（試し刷り）			本制作（試し刷り）	
14	10月2日	木		本制作（加筆、刷り）		○	本制作（加筆、刷り）	
15	10月3日	金		本制作（加筆、刷り）			本制作（加筆、刷り）	
16	10月4日	土		本制作（加筆、刷り）			—	
	10月5日	日						
17	10月6日	月		本制作（本刷り）		○	本制作（本刷り）	
18	10月7日	火		講評準備		○	講評	

学習目標

銅版画の制作プロセスを修得し、作品を完成させる。銅版画の腐食技法の多様な表現に触れ、その中で自らの表現に必要な技法を選択し計画的に作業を進めることができる。版を媒介することで生じる偶然性を柔軟に取り入れながら自分の表現の世界を広げる。

予習・準備物

予習：今回自分が挑戦したい表現や描いてみたいテーマがあれば簡単な下絵を用意して見せて下さい。（なくてもよい）準備物：◇インク（シャルボネ 55985, 文房堂インク青口）◇グランド◇黒ニス◇裏止め用塩化ビニールシート◇リグロイン◇プリントクリーナー◇人絹◇寒冷紗◇ニードル人数分 スクレーパー パニッシャー◇ハーネミューレ◇ピカール◇青棒◇松脂等アクアチントセット◇スパイクラベンダーオイル◇マットフィルム◇サンドペーパー（60～180番）

注意事項

工房でのルールに則り、機材や材料を適切に扱い安全に努めること。

制作に適した服装で臨むこと。サンダル、ヒールは禁止。＊エプロン、ビニール手袋（丈夫なもの）持参。

評価方法

課題作品70％ 制作姿勢（熱意・積極性など）30％

版画概論

担当教員 植田爽介

受講アトリエ 【501】

2025/10/9(木)-11/13(木)

11:00-12:30

授業内容

現代美術作品、現代版画作品の鑑賞。ポップアート以降、現在に至るまでの様々な作品の鑑賞を通してその作品の魅力とコンセプトの研究を行い、現代版表現を考える。自身の作品をより理解し、制作の可能性を拡げることが目的に、個々の作品のプレゼンテーションを行う。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	10月9日	木	○	—	各6回の授業説明、自己紹介		実技カリキュラム	興味から影響を立ち上げる
2	10月16日	木	○	—	作品鑑賞～グループワーク		実技カリキュラム	影響から作家を立ち上げる
3	10月23日	木	○	—	グループワーク～作品鑑賞		実技カリキュラム	作家から指導者を立ち上げる
4	10月30日	木	○	—	作品鑑賞～グループワーク		実技カリキュラム	指導者から作品を立ち上げる
5	11月6日	木	○	—	作品制作(サイアノタイプ)		実技カリキュラム	作品から概念を立ち上げる
6	11月13日	木	○	—	作品プレゼンテーション		実技カリキュラム	概念から動機を立ち上げる

学習目標

本授業では"stand up complex(立ち上がる複合体)"を全体(全6回)の授業テーマに①興味から影響、②影響から作家、③作家から指導者、④指導者から作品、⑤作品から概念、⑥概念から動機をそれぞれ立ち上げることを各授業の流れとして、学校在学中、卒業後も通ずる創作活動における基本の流れや多角的に他己理解から自己理解を行うことを目的に実践性と実験性を織り交ぜながら授業を行う。

予習・準備物

各自、自分が今一番「推し」ている作家と「幼少期」影響を受けた作家や作品について調べておく。その作家性に着目することで客観性を養い、その他己分析による客観性を自己分析に置き換えて授業を進めていく。

注意事項

積極性を持って授業に参加してください。

評価方法

授業での積極性。 自身の作品のプレゼンテーション、および研究発表。

銅版直刻

担当教員 長島 充
受講アトリエ【版画工房/402】

2025/10/09(木)- 10/20(月)
9：20-12：30/13：30-16：30

授業内容

「人間像」というテーマでモノクロ直刻法銅版画を1点制作する（但し「自画像」は特別な意味を持つので不可）。
家族、友人、など身近な人物、都会を行き交う人たち、イメージの中の想像上の人物、etc.広い意味での‘人間’というものをとらえてください。雑誌や写真などの人物からの転用もよいが、その場合、絵の中で構成し直すこと。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	10月9日	木		—	版画概論	○	ガイダンスと下絵トレース。銅版画直刻法の概念、技法等分り易く解説。	
2	10月10日	金			制作		制作	
3	10月11日	土			制作		—	
	10月12日	日						
	10月13日	月		スポーツの日				
4	10月14日	火	○		制作	○	プレス機を使用し刷りの実演。第1回目の試し刷り。各種工具の砥ぎ方説明。	
5	10月15日	水			制作		制作	
6	10月16日	木		—	版画概論	○	彫版のつめ方指導と本刷り指導。	
7	10月17日	金			制作		制作	
8	10月18日	土			制作		—	
	10月19日	日						
10	10月20日	月			制作	○	講評会と採点	

学習目標

腐食法銅版画とは異なり、ダイレクトに銅板を彫っていく、この技法ならではの醍醐味と、そのことによって現れる瑞々しく暖かい線描の魅力や深い黒色の美しさを制作を通して体験し自己の表現として会得して貰おう。

予習・準備物

銅板（36.5×30cm厚さ1mm）、紙ヤスリ（粗め）、ピカール（金属磨き）、ウエス、薄口トレーシングペーパー、片面のみ黒のカーボン紙、フィクサチーフ、ボールペン、H or 2Hの鉛筆、油性マジックorクレパス、ドライポイントニードル、スクレーパー付きバニッシャー、ルーレット、ロッカー、ビュラン、オイルストーン、アーカンサス・オイルストーン（なければ水ペーパーで代用）、機械油、その他、身の回りのもので銅板を傷つけられるもの各自で準備(粗めのサンドペーパー、釘、千枚通し、ワイヤーブラシ、タガネetc.) シャルボネF66エッチングインク、東洋インク7005番or文房堂チューブ入りエッチングインク（いずれも黒）、寒冷紗、キュブラ、ウエス、ゴムローラー、版画用紙（ハーネミュレ、BFK、アルシュ他）、ビニールシート、水張りテープ、その他刷りに必要な道具。

注意事項

工房使用にあたって薬品類、プレス機、工具類など危険を伴う物もあるため、使用するときは講師や助手の指示に従うこと。
※エスキース制作の大きさは版と同サイズ、描画画材は自由。エスキースは必ず初日までに用意すること（厳守）！！

評価方法

基本的には提出された完成作品による採点。集中度、課題の理解度等を加味し、総合的に評価する。

2年ファインアート科版画専攻

イラストレーションB（版画）

担当教員 今野樹里恵

受講アトリエ【402、版画工房】

2025/10/21(火)-2025/11/1(土)

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

テーマ（音楽）に沿って3点以上の連作を制作する。既存イメージができているテーマを、自分だけの表現方法で再構成すること。更に複数点制作することにより、個性きわだつ一体感のある作品群で表現することを学ぶ。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	10月21日	火	○	オリエンテーション			制作	
2	10月22日	水		制作		○	制作	
3	10月23日	木		－ / 版画概論			制作	
4	10月24日	金		制作			制作	
5	10月25日	土	○	制作			－	
	10月26日	日						
6	10月27日	月		制作			制作	
7	10月28日	火		制作		○	制作	
8	10月29日	水		制作		○	制作	
9	10月30日	木		－ / 版画概論			制作	
10	10月31日	金		制作			制作	
11	11月1日	土	○	講評（成果発表）			－	

学習目標

テーマに基づくイラストレーション制作を修得します。一つの世界観で一連の作品群を制作すること、自分の内面を表現するだけでなく外的要因（テーマ）に応じて制作をすることで、既存の表現に囚われずに新しい自分だけの表現を目指します。タイトなスケジュールでの制作になりますので、計画的に制作しましょう。

予習・準備物

連作制作に必要な画材（支持体・絵具・版画材料など）。イメージができてから用意しても良い。

注意事項

授業時間内に3点以上を完成させること。

評価方法

課題提出と出席で評価する。

木版画

2025/06/23(月)-07/12(土)
9:20-12:30/13:30-16:30

1年次に体験した油性木版画1版単色をこの授業ではさらに水性多色木版画に展開していくことで、木版画技法の充実と色彩について研究します。水性多色木版画の技法は浮世絵に見られるように日本独自の進化を遂げた技法でもあります。古来からの技法と現代の技法を駆使して自由な発想で制作してもらいます。

・版木サイズ300×225mm(4～5版多色)

授業スケジュール				計画		1限		2限		指導		3限・4限		備考	
1	6月23日	月	○	□ガイダンス ・木版画について ・水性摺りの技法をひととおり				○		□ワークショップ ・用意した版木を使って摺り体験					
2	6月24日	火	○	□トレースについて □彫刻刀について						A下絵制作 Bワークショップつづき Cダイレクトに版木を彫る ※ABCを各自で進めておく				・トレースの方法 ・彫刻刀の安全な使用法 ・彫り方による様々な効果	
3	6月25日	水		A下絵制作 Bワークショップつづき Cダイレクトに版木を彫る ※ABCを各自で進めておく						A下絵制作 Bワークショップつづき Cダイレクトに版木を彫る ※ABCを各自で進めておく				下絵 → マットフィルム → 版木	
4	6月26日	木		A下絵制作 Bワークショップつづき Cダイレクトに版木を彫る ※ABCを各自で進めておく				○		□木版画表現 ① ・摺り方による効果				・様々なボカシ摺り ・様々なベタ摺り	
5	6月27日	金		下絵制作～トレース～彫版						トレース～彫版					
6	6月28日	土		— 版画講座						—					
	6月29日	日													
7	6月30日	月		彫版						彫版					
8	7月1日	火		彫版～試し摺り				○		□木版画表現 ② ・彫刻刀以外も使って制作					
9	7月2日	水		彫版～試し摺り				○		彫版～試し摺り					
10	7月3日	木		彫版～試し摺り						彫版～試し摺り					
11	7月4日	金	○	彫版～試し摺り				○		□木版画表現③ ・油性インクによる摺り					
12	7月5日	土		— 版画講座						—					
	7月6日	日													
13	7月7日	月		彫版～試し摺り						彫版～試し摺り					
14	7月8日	火		彫版～試し摺り				○		□木版画表現 ④ ・作品の展開				・色彩・油性と水性・プレス機と バレンの効果の違い等を生かした 表現の展開	
15	7月9日	水		彫版～試し摺り						彫版～試し摺り					
16	7月10日	木		彫版～試し摺り				○		□作品の仕上げ				・水張りやその他の仕上げ ・額装について	
17	7月11日	金		本摺り				○		本摺り					
18	7月12日	土	○	講評						—					

提出課題による採点・授業態度・摺りの経験値

シルクスクリーン

担当教員 東樋口徹
受講アトリエ【版画工房/402】

2025/06/04(水)-06/20(金)
9：20-12：30/13：30-16：30

授業内容

基本的な水性インクで紙に刷る4版4色を使った作品（A4／21cm×29.7cm）を一点（紙4枚程度）、5版以上を使った作品（A3／29.7cm×42cm）を一点(紙8枚程度)制作。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	6月4日	水	○	オリエンテーション		○	PCを使用したフィルム作成	PCを使用したフィルム作成説明
2	6月5日	木		制作		○	製版及び刷り方説明	
3	6月6日	金		制作			制作	
4	6月7日	土		— 版画講座			—	
	6月8日	日						
5	6月9日	月		制作		○	色々な刷り方説明	
6	6月10日	火		制作			制作	
7	6月11日	水		制作		○	制作	
8	6月12日	木		制作			制作	
9	6月13日	金		制作			制作	
10	6月14日	土		— 版画講座			—	
	6月15日	日						
11	6月16日	月		制作			制作	
12	6月17日	火		制作		○	制作	
13	6月18日	水		制作		○	制作	
14	6月19日	木		制作			制作	
15	6月20日	金		制作		○	講評	

学習目標

シルクスクリーン版画制作を通して孔版画の専門的知識を習得し、自己表現に結びつくよう学習します。基本の直接製版方法を重ねて実習し、環境にやさしい水性インクを使用して刷紙に刷ります。PCを使用した4色分解による4版4色の作品（18×25cm位）を1点、5版以上を使った作品（25×38cm位）を1点制作、色を刷り重ねる時の表現効果、用具資材の正しい使い方、手順を覚え多彩な効果を会得していきます。

予習・準備物

4色分解用の写真等の画像データ(200～300ppi程度の解像度でA4サイズ程度)、下絵(A3程度)、紙コップ、プラスチックスプーン、ウエス（ボロ布）、新聞紙、用紙（いずみまたは厚紙セント紙）、制作マニュアル、マスキングテープ、試し刷り用紙（なんでも可）

注意事項

初日にPCを使用したフィルム作成の説明及び作成を行います。初日までにPCを使用した4色分解による作品用の写真等の画像データを用意すること。(短辺が1500pixel以上の物)

評価方法

習熟度と提出課題による採点

2年 ファインアート科版画専攻

石版画

担当教員 板津悟
受講アトリエ【版画工房/402】

2025/05/28(水)- 06/03(火)
9：20-12：30/13：30-16：30

授業内容
石版石を版材として使える様な状態にするまでの作業工程も含めて、素材との対話を大切にしながら個々の表現を考える。作品はモノトーンとし、一つ一つの行程を把握する。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	5月28日	水	○	指導日		○	指導日	
2	5月29日	木		制作			制作	
3	5月30日	金	○	指導日		○	指導日	
4	5月31日	土		— 版画講座			—	
	6月1日	日						
5	6月2日	月		制作			制作	
6	6月3日	火	○	指導日		○	講評	

学習目標
講義、実習を通して石版画の歴史や技術を学び、平版の仕組みを体感しながら石版石の特徴を活かした制作を行う。

予習・準備物
制作のもとになるエスキース、ウェス、新聞紙、紙（上質紙厚口、いずみ等）描画材料（ダーマトグラフ、ボールペン、等）、定規、鉛筆、マスキングテープ

注意事項

評価方法
提出課題による採点

リトグラフ

担当教員 中村真理
受講アトリエ【工房/402】

2025/5/07(水)-05/27(火)
9：20-12：30/13：30-16：30

授業内容
リトグラフの特性を利用し、個々の表現したいテーマに基づき制作する。4 版種の中でリトグラフの版作りは彫るのではなく「描く」という行為に最も近い版、ドローイングの様に手を動かして版づくりを行い自分自身で体験しながらリトグラフの仕組みを学んでいく。

授業スケジュール／計画					
			指導	指導	備考
1	5月7日	水	1限 エスキースの完成	○ 3限・4限 オリエンテーション、版の準備	
2	5月8日	木	2限 描画	○ 描画・第一製版のデモ	
3	5月9日	金	描画・製版	描画・製版	
4	5月10日	土	－ 版画講座	－	
	5月11日	日			
	5月12日	月	健康診断		
5	5月13日	火	描画・製版	○ 第二製版と刷りのデモ	モノクロ作品完成目安、終わった人から多色作品の制作
6	5月14日	水	自主制作	自主制作	
7	5月15日	木	自主制作	○ ベタ版のデモ	
8	5月16日	金	自主制作	自主制作	
9	5月17日	土	－ 版画講座	－	
	5月18日	日			
10	5月19日	月	自主制作	○ 自主制作	
11	5月20日	火	自主制作	自主制作	
12	5月21日	水	自主制作	○ 自主制作	
13	5月22日	木	自主制作	自主制作	
14	5月23日	金	自主制作	自主制作	
15	5月24日	土	－ 版画講座	－	
	5月25日	日			
16	5月26日	月	自主制作	○ 自主制作	
17	5月27日	火	自主制作	○ 講評会	

学習目標
講義、実習を通してリトグラフの製版方法や刷りの行程を学び理解を深め、リトグラフの特性を活かした制作を行う。

予習・準備物
300×400mm程度の作品のモとなるエスキース、ウエス、新聞紙、紙（試し刷り用上質紙、いづみ等版画用紙）、描画材（ダーマトグラフ、リトクレヨン、とき墨、油性ボールペン等）、筆、マスキングテープ、作業着やエプロン等

注意事項
作業行程の多い技法です、計画的に進めること、エスキースは色も含め考えてきてください。白黒 1 版の試しの作品と2～3版程度刷り重ねた多色の作品の2点を制作します。採点は多色作品のみ。

評価方法
提出課題による採点

ドローイング

担当教員 鈴木吐志哉

受講アトリエ【402、版画工房】

2025/04/09(水)- 04/16(水)

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

サイズ・支持体・素材・枚数・他。各自の判断で選択して制作。版表現から一旦離れ、自由な表現を繰り返す中から自分の作品について考える授業である。今回は特に多くの枚数をこなすことで、失敗を恐れずに制作する楽しみを存分に意識する期間とする。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	4月9日	水	○	オリエンテーション		○	制作	ガイダンス・作家紹介
2	4月10日	木		制作			制作	
3	4月11日	金		制作		○	ディスカッション	
4	4月12日	土		— 版画講座			—	
	4月13日	日						
5	4月14日	月		制作		○	制作	
6	4月15日	火		制作			制作	
7	4月16日	水	○	講評			制作	

学習目標

版画制作から離れ、ドローイング制作に集中する時間とする。版画の技法に制約されることなく、様々な支持体や素材を試す事で多角的に各自の表現を研究する。

予習・準備物

- ・画集やWEBなどでドローイングについて調べておく事が望ましい。（授業開始後で可）
- ・素材や支持体は自由とする。各自で様々な描画材を試す事が望ましい（初日のガイダンスでも説明します）

注意事項

危険を伴うもの等の特殊な事項については講師と相談する事。

評価方法

作品内容・制作姿勢。今回は特に枚数を重視する。

版画講座

担当教員 今井圭介
受講アトリエ 【502】

2025/04/12(土)-07/05(土)
11：00-12：30

授業内容
版画の用語や技法についての解説からはじめ、浮世絵版画や日本の近・現代版画の紹介を実際の作品や資料、画像使ってわかりやすくみていきます。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	4月12日	土	○	版画よもやま話①（版の表現）			実技カリキュラム	
2	4月19日	土	○	版画よもやま話②（版画の技法）			実技カリキュラム	
3	4月26日	土	○	版画よもやま話③（素材と用語）			実技カリキュラム	
4	5月10日	土	○	浮世絵版画①浮世絵版画のはじまり			実技カリキュラム	
5	5月17日	土	○	浮世絵版画②技法と制作システム			実技カリキュラム	
6	5月24日	土	○	日本の腐蝕銅版画と司馬江漢			実技カリキュラム	
7	5月31日	土	○	日本開国！横浜絵と開化絵			実技カリキュラム	
8	6月7日	土	○	光線画の浮世絵師・小林清親			実技カリキュラム	
9	6月14日	土	○	日本の近代版画と創作版画運動			実技カリキュラム	
10	6月21日	土	○	詩と版画			実技カリキュラム	
11	6月28日	土	○	東京国際版画ビエンナーレと現代版画			実技カリキュラム	
12	7月5日	土	○	時代の寵児・池田満寿夫			実技カリキュラム	

学習目標
「版画」という言葉は明治の終わり頃につくられた造語です。それは版がもつ独自の表現による、版からこそ創出される画（え）ということを強く意識して生み出されたものでした。そうした版画についてルーツをたどったり実物や資料、画像をみたりしながら、より一層に理解を深めていくことを目標にします。

予習・準備物
授業内容を事前に確認し、ネットや書籍などで予習をすること。また、美術館や博物館、ギャラリーなどの展示をチェックし、積極的に版画鑑賞を行うておくこと。

注意事項
講義で気になったり興味をひかれたことは自身でさらに研究をするように心がけましょう

評価方法
授業態度 及びレポート

イラストレーションA（版画）

担当教員 須田浩介
受講アトリエ【402、工房】

2025/04/17(水)-2025/4/25(金)
9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容
4枚の作品を描く。描くテーマは各自で決めて良いです。自分なりに表現のフォーマットを考えてから描く。描くもののテーマ、コンセプト、発表する際のブランディングを意識する。テーマ例、四季、トランプ、方角、喜怒哀楽、etc
分かりやすいので4にまつわるものを例に出しましたが別にそこはそんなに意識しなくても良いです。自分の好きな物事などに絡めて自分の表現の枠で4枚描く。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	4月17日	木				○	オリエンテーション	
2	4月18日	金			制作	○	制作	
3	4月19日	土		—	／版画講座		—	
	4月20日	日						
4	4月21日	月	○		制作		制作	
5	4月22日	火			制作	○	制作	
6	4月23日	水			制作		制作	
7	4月24日	木			制作		制作	
8	4月25日	金	○		制作	○	講評	

学習目標
イラストレーターがクライアントワークで行うアイディア出しラフの提出などのプロセスを活かし制作に取り組みアーティストとしてもイラストレーターとしても必要なコンセプトと作品表現とを繋げる力を伸ばす。アナログ画材を使用し与えられた枠組みの中で作品を制作する上で個々の持つ個性や表現を活かしながらより魅力的な作品表現となる様に作品を描く上でのコンセプトと「何故」をよく考えながら表現に繋げ自分の表現や世界観をブランディングしていく為の授業です。

予習・準備物
学生準備物：画材はアナログツールであれば自由、作品の支持体も自由(サイズはA4サイズ以上)、サイズは4枚とも揃える事。

注意事項
制作に必要な画材は自分で用意してもらうことになります。自分の表現を発揮できる支持体や描画材を選び自分の世界観を遺憾なく発揮し制作をしてください。

評価方法
課題提出と授業態度で評価する。